

暮らしのSDGs学習会 200回記念 ビッグ対談会記録

開催日時 令和6年7月19日(金) 15:00 ~ 16:00
開催場所 流山市 スターツおおたかの森ホール
主催者 温暖化防止ながれやま(OBN)
来場者数 106名(スタッフ除く)
スタッフ 温暖化防止ながれやま会員10名 他の組織からの応援者9名
責任者 平手彰(OBN会員)

対談者及び司会進行

- ・ 齋藤健経済産業大臣(衆議院議員5期目 農林水産大臣・法務大臣を歴任)
- ・ 平田仁子(きみこ)氏(気候変動シンクタンク代表「ゴールドマン環境賞」受賞)
- ・ 鬼沢良子氏(持続可能な社会をつくる 元気ネット理事長):司会進行担当

内容

- ・ **増永 OBN 代表**: ご来場のお礼等の挨拶
- ・ **井崎流山市長からのメッセージ紹介**(笠原 OBN 会員:流山市議が代読)
- ・ **齋藤大臣**:気候変動(地球温暖化)対策の重要性は認識しているが、中国は石炭火力が発電の6割あり、日本は3割と少ない。全体の発電量も中国との比較では少ない。
- ・ **平田代表**:現状では今世紀末には、世界の平均気温は2.6℃上昇と想定されておりこれを1.5℃に抑える活動を行っているが、非常に厳しい。目標実現には再エネの拡大が必要だが、洋上風力発電をEEZに拡大する法案が採決に至らなかったのは残念。
- ・ **齋藤大臣**:洋上風力発電の設置を拡大する法案に関しては、多くの関係者と協議を重ねた。次の国会では可決させたい。今年の夏も酷暑が続くそうなので、電力予備率が3%を切る可能性もあり、更に火力発電を運転せざるを得ない状況がある。
- ・ **平田代表**:再エネの増加には太陽光発電の増加が必要だが、パネルの生産が日本国内から中国へシフトしている。
- ・ **齋藤大臣**:太陽光発電パネルは、軽くて、パネルを曲げることが出来、かつ安価な新製品を開発している。中国が追って来ているが、負けないように開発する。
<ここで、別の公務のために齋藤大臣が退席>
- ・ 平田代表と鬼沢代表の対談では、特に石炭火力については、日本は中国と比較して発電量が少ないから問題ないとは言えない等の話や、一方で、齋藤大臣の再エネを拡大しようという考えが感じられたのは良かった、との話もありました。
- ・ 対談後のNHKテレビインタビューに平田代表は、「(政府の)脱炭素への向かっていくべく方向性はそんなに違いはなく、日本が世界をリードできるような大きな役割を果たすんだと胸を張って進んでもらいたい」と話されていました。
- ・ この模様は下記のWebサイトでご覧になれます。

[石炭火力発電削減へ 齋藤経産相と気候変動対策の専門家が意見交換 千葉 流山 | NHK | 脱炭素社会への動き](#)

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240720/k10014516981000.html>